

展示室1 小特集：ノリッジ派

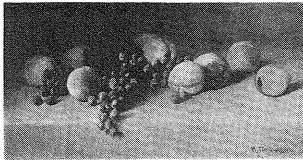


ジョセフ・スタナード
「トロウスにて、石炭積出し波止場で釣りをする少年」

19世紀前半、イギリス東部ノーフォークのノリッジを中心に、風景画を描いた人々（ノリッジ派）がいました。中央のアカデミズムとは一線を画し、イギリスの地方の風景を絵の題材にし、「ノリッジ美術家協会」を設立して展覧会を定期的に行っていました。その画風は、海の向こうのオランダの自然主義的な風景画からも影響を受けています。中心的役割を果たしたのはジョン・クローム（1768～1821）と、ジョン・セル・コットマン（1782～1842）の2人の画家で、身近に広がる田園や建物、野山や湖沼といった豊かな自然が描かれました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●ノリッジ派			
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス
ジョン・クローム	木々とギシギシ（3本の樹）	1810頃	ソフトグランドエッチング、ドライポイント・紙
ジョン・クローム	マウスホールド・ヒース、ノリッジ	1810頃	エッチング・紙
ジョン・クローム	新しい水車馬の正面、ノリッジ	1813	エッチング・紙
ジョン・クローム	ソマリートン付近のウィッカーズウェル湖	1812頃	エッチング・紙
ジョン・クローム	構図：森林を抜ける砂道	1813	エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	セント・ソヴァー・ル・ヴィコント大寺院		エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	エイカー城小修道院		エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	主教官邸の門、ノリッジ		エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	カストール城	1815	エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	ハウデン供住聖職者協会の東端、ヨークシャー		エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	『ノーフォーク建築遺構のエッチング集』より	1818	エッチング・紙
ジョン・セル・コットマン	『ジョン・セル・コットマンのエッチング集』より	1811	エッチング・紙
ジョセフ・スタナード	ブレイドンに浮かぶ船	1825	エッチング・紙
ジョセフ・スタナード	コテージの外観と人物（構図）	1828頃	エッチング・紙
ジョセフ・スタナード	トロウスにて、石炭積出し波止場で釣りをする少年		エッチング・紙
ロバート・ブレイク	船着路付近、クローマー	1834頃	エッチング・紙
ドーソン・ターナー	セント・ベネット修道院		エッチング・紙
トマス・ラウンド	リーダムスの風車小屋	1833頃	ドライポイント・紙
トマス・ラウンド	リーダムにて	1833頃	エッチング、ドライポイント・紙
トマス・ラウンド	キャロウ付近の河川風景	1833頃	エッチング・紙
トマス・ラウンド	川のある風景	1833頃	ドライポイント・紙
トマス・ラウンド	ウェイヴニー川：構図	1833頃	ドライポイント・紙
ヘンリー・ニナム	聖ベネットの修道院、ホーニング、ノーフォーク	1831	エッチング・紙
ヘンリー・ニナム	ノース・ディーンズ、ヤーマス		エッチング、ソフトグランドエッチング・紙
ヘンリー・ニナム	ピュアの思い出		エッチング・紙
ヘンリー・ニナム	川と樹々、ホウィットリンガム、ノーフォーク		エッチング・紙
ヘンリー・ニナム	仕上げ工の家、セント・マーティン通り、ノリッジ		エッチング・紙
ヘンリー・ニナム	リーダム付近の粉ひき場、ノーフォーク		エッチング・紙
エドワード・トマス・ダニエル	コテージと樹々、ノリッジ	1824	エッチング・紙
ジョン・ミドルトン	2月のある晴れた日	1850頃	エッチング・紙
●イギリス近代美術			
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス
アルバート・ジョセフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス

展示室2 季節を写す ―夏から秋へ―

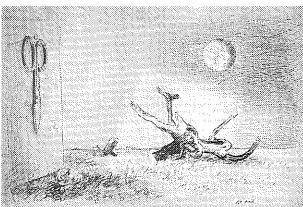


高橋勝蔵「桃と葡萄」

日本の伝統的な名所絵には四季を写したものが多く、古くから人々に親しまれてきました。明治時代の後半になると、西洋の自然観が取り入れられた影響もあって、画家たちが自分自身の目で発見した風景の美しさを描くようになりました。四季折々に変化する自然の様々な姿や風物は、そうした題材にふさわしいものでした。今回は夏と秋を主題にした作品を特集します。海や山、雲や風、草花などを捉えた画面には、季語に詠まれるような日本人の伝統的な季節感とともに、画家の個性が豊かに息づいています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
北川民次	風景（瀬戸）	1944（昭和19）	油彩・キャンバス	
南 薫造	樹木		油彩・キャンバス	南建氏寄贈
栗原忠二	風景（ヨーロッパ風景）		油彩・キャンバス	
石川寅二	房総風景	1923～24（大正12～13）	油彩・キャンバス	
中沢弘光	灯（加茂川夕涼）	1914（大正3）	油彩・キャンバス	
望月省三	潮干狩		水彩・紙	
河合新蔵	凌霄花のある宿場		水彩・紙	
三宅克己	箱根		水彩・紙	
大下藤次郎	赤木駒ヶ岳の紅葉	1907（明治40）	水彩・紙	
大下藤次郎	晩秋	1908（明治41）	水彩・紙	
吉田 博	積み藁のある風景		水彩・紙	
安藤重春	あんず	1932～37（昭和7～12）頃	絹本着色	安藤重春氏寄贈
安藤重春	笹	1932～37（昭和7～12）頃	絹本着色	安藤重春氏寄贈
武内鶴之助	庭		パステル・紙	
中村 彝	朝顔	1923（大正12）	油彩・キャンバス	
伊藤快彦	夏の静物		油彩・板	
高橋勝蔵	桃と葡萄	1909（明治42）頃	油彩・キャンバス	
浅井 忠	収穫	1893（明治26）頃	油彩・キャンバス	
安井曾太郎	初秋の北京	1944（昭和19）	油彩・キャンバス	
山下新太郎	苔寺	1922（大正11）頃	油彩・キャンバス	
中川八郎	秋郊		水彩・紙	
中川八郎	秋の河辺		水彩・紙	

展示室3 日本のシュルレアリスム



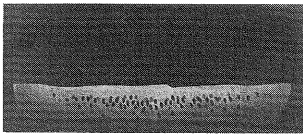
吉井忠「ハサミと月」

1920-30年代にフランスで起こったシュルレアリスム運動の美術は、無関係なモノどうしをひとつの画面の中で出会わせ、ありそうだけれど決してあり得ない風景を創り出すものでした。戦前のファシズムの台頭と戦後の急激な高度成長期の中にあった日本の画家たちの中には、シュルレアリスムの表現方法を使って自身の不安感を表し、社会の矛盾を告発していく者もいました。恐らくそういった点は、日本の戦後シュルレアリスム運動のひとつの典型だといっていいでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
高山良策	漁夫	1958（昭和33）	油彩・キャンバス	
野地正記	宇宙人の争い		油彩・板	野地友子氏寄贈
佐藤昭一	試験A	1955（昭和30）	油彩・紙	
佐藤昭一	試験B	1955（昭和30）	油彩・紙	佐藤昭一氏寄贈
山下菊二	顔の中の顔	1963（昭和38）	油彩、コラージュ・キャンバス	
泉 茂	胎動		リトグラフ・紙	
中村 宏	亡命者の対話より（プレヒト）No.4<少女群舞>	1963（昭和38）	インク、墨・紙	
吉井 忠	私は輝く水平線を見る	1938（昭和13）	インク、水彩、コラージュ・紙	吉井忠氏寄贈
吉井 忠	滝口氏による灯	1938（昭和13）	インク、水彩・紙	吉井忠氏寄贈
吉井 忠	落日	1938（昭和13）	インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井 忠	ハサミと月		インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井 忠	手のある風景	1937（昭和12）	インク・紙	吉井忠氏寄贈

瑛 九	くちびる	1953 (昭和28)	エッチング・紙	
池田龍雄	化物の系譜シリーズ『像』	1956 (昭和31)	インク、コンテ・紙	
浜田知明	晩年 (B)	1972 (昭和47)	エッチング・紙	
駒井哲郎	墓 (マルドロオルの歌)	1956 (昭和31)	エッチング・紙	
池田満寿夫	コラージュ	1968 (昭和43)	コラージュ、グワッシュ・紙	
杉全 直	ふたりの肖像	1949 (昭和24)	油彩・キャンバス	
早瀬龍江	絶望の人間	1958 (昭和33)	油彩・キャンバス	白木正一氏寄贈
早瀬龍江	營	1940 (昭和15)	油彩・キャンバス	
早瀬龍江	似而非宗教	1953 (昭和28)	油彩・キャンバス	白木正一氏寄贈
白木正一	虫囊	1948 (昭和23)	油彩・キャンバス	
白木正一	降架	1953 (昭和28)	油彩・キャンバス	白木幸三氏寄贈
白木正一	ポイント	1955 (昭和30)	油彩、エナメル・キャンバス	
白木正一	予感	1955 (昭和30)	油彩・キャンバス	
鎌田正蔵	白日夢	1938 (昭和13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	魔の山	1938 (昭和13) 頃	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
植木 茂	体		木	
堀内正和	顔	1955 (昭和30)	鉄、セメント	

展示室4① 版で発信する作家たち



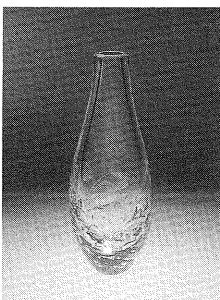
浜口陽三「西瓜」

現代では、「版画」は洋画や日本画とともに、絵画のひとつのジャンルとして分類され、筆のかわりに「版」を使って絵を描く表現形式として一般的にも認められています。しかし、日本の近代においては、およそ百年をかけて画家がみずから「版」を作って表現する版画作品を完成させ、今日の現代版画を確立させてきました。

版画は、版という機能により同じものを複数制作できるという特長をもっています。その一方で、「版」でなければ表現することができない可能性を追求している作家たちも増えてきているといえるでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
菅野 陽	プロメテ	1962 (昭和37)	リフトグラウンドエッチング、アクアチント・紙	
泉 茂	インディアン	1956 (昭和31)	リトグラフ・紙	
駒井哲郎	花とレモン	1974 (昭和49) 頃	モノタイプ・紙	
浜口陽三	西瓜	1981 (昭和56)	メゾチント・紙	
斎藤寿一	街	1959 (昭和34)	ディープエッチング、エングレーヴィング・紙	斎藤れい子氏寄贈
池田満寿夫	空の寝台	1969 (昭和44)	エッチング、ルーレット、メゾチント、ドライポイント・紙	
オノサト・トシノブ	66-B	1966 (昭和41)	リトグラフ・紙	
岩谷 徹	落日一森	1985 (昭和60)	メゾチント・紙	
安部直人	転生	1994 (平成6)	エッチング、メゾチント・紙	
斎藤 清	珊瑚	1966 (昭和41)	木版・紙	
東谷武美	沈む夜	1991 (平成3)	リトグラフ・紙	
中林忠良	転位 '90—地—I	1990 (平成2)	エッチング、アクアチント・紙	
吉田穂高	私のコレクションより—錆色の壁	1992 (平成4)	木版、亜鉛凸版・紙	
柄沢 齊	死と変容 I 夜	1988 (昭和63)	木口木版・紙/ポートフォリオ	

展示室4② 涼—ガラスの美



各務鏡三「クリスタル花器《鱗影》」

拝啓皆様。暑中(8月過ぎたら残暑)お見舞い申し上げます。今年の夏もまた暑いですね。いかがお過ごしでしょうか。こんな暑い日は冷たいものがほしくなりますね。かき氷にスイカ、麦茶やキンキンに冷えたビール……。もう、たまりません。

ところで、のどごしに冷たいものもいいですが、日本人は視覚的に冷たそうなものを見ても涼しさを感じてきました。ガラスの器はその代表です。

郡山市立美術館のガラス器といえば佐藤潤四郎ですが、このほど潤四郎の師匠である各務鏡三、そして兄弟弟子の吉田丈夫のガラス器を収蔵しました。今回はその初お目見えです。潤四郎の心休まる器とともに今後ともよろしく願い申し上げます。

それでは皆様ご自愛ください。

敬具

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
各務鏡三	クリスタル花器《鱗影》	1970(昭和45)頃	宙吹き・気泡封入、グラヴェール	田淵十一氏寄贈
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		宙吹き	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973～6(昭和48～51)頃	宙吹き・サンドブラスト	(株)ノリタケクリスタル寄贈
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980～82(昭和55～57)頃	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	型吹き・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	ブルー花器		宙吹き・被せガラス、カット	
佐藤潤四郎	クリスタル六角鉢		宙吹き	
佐藤潤四郎	ガラスの神様文瓶		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル(株)製作	ウイスキーボトル『インペリアル』		機械吹き	サントリー(株)寄贈
佐藤潤四郎	フンペングラス	1975(昭和50)頃	宙吹き	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		宙吹き・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎	ワイングラス		宙吹き・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	葡萄文ワイングラス		宙吹き・グラヴェール、ブランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		宙吹き・グラヴェール、ブランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・好きな形		宙吹き・グラヴェール、ブランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯(グリーン)		宙吹き・ブランツ	石川和子氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		型吹き他	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿		宙吹き	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	魚文水指	1986(昭和61)	型吹き	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器(控)No.1	1980(昭和55)	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー(控)No.1	1984(昭和59)	宙吹き・ブランツ、雲母封入	
佐藤潤四郎	舍利器		宙吹き・カレット融着	
佐藤潤四郎	置物・花	1954(昭和29)頃	サンドブラスト	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972(昭和47)頃	宙吹き	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972(昭和47)頃	宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(オレンジ)	1973～6(昭和48～51)頃	宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(ブルー)	1973～6(昭和48～51)頃	宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980～2(昭和55～57)頃	宙吹き・ブランツ	
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984(昭和59)頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ステンドグラス・窯			小林東洋氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
●1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	量子雲ⅩⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域ⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
山本正道	帽子を被る男の肖像	1970～74(昭和45～49)	ブロンズ	
舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩	
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。